

中学部活サッカーの現況(静岡県 U-14 新人サッカー大会)

報告者: 清野 雄大(東海大学付属翔洋高校中等部)

■目的

静岡県 U-14 年代の選手の現状把握と課題の発見

■分析対象:

磐田市立豊岡中、浜松市立南陽中、常葉学園橘中、浜松開誠館中

■報告対象者:

3 種の指導者

■流れおよび全体像:

静岡県トラック協会長杯 第 28 回静岡県 U-14 新人サッカー大会

【準決勝 1】 磐田市立豊岡中 1-2 (0-0) 浜松市立南陽中

【準決勝 2】 常葉学園橘中 1-0 (0-0) 浜松開誠館中

【決勝】 浜松市立南陽中 4-1 (1-0) 常葉学園橘中

■課題の発見と分析

〈磐田市立豊岡中〉

- ・DF からのロングボールを長身の FW がポストプレーで起点を作るカウンターサッカー
- ・守備は攻め込まれている時、常にペナルティーエリア内に 5 人以上みられた

〈浜松開誠館中〉

- ・それぞれが一定の距離を保ちながらのポゼッションサッカー
- ・DF ラインから速いパススピードでポゼッションし、正確なボールコントロールで相手ゴール前までいくもののゴール前での決定的なチャンスが作れなかった
- ・守備においては一発で飛び込む守備が目立った

〈常葉学園橘中〉

- ・ボールを奪ったら縦パスもしくは大きくクリアしたボールを前線が追いかけるカウンターサッカー
- ・守備において全体のラインコントロール(アップダウン)やスライド(ボールサイドへの横のしぼり)が徹底されておりコンパクトな守備だった
- ・攻撃においてもコンパクトな守備位置のままパスをしようとするため、プレッシャーをすぐに受けてしまい結果蹴って走るサッカーになっていた

〈浜松市立南陽中〉

- ・全体的にパススピードが速く、高いボールキープ力と個人技を有した MF10 番を起点にしたポゼッションサッカー
- ・サイドからのセンタリングでチャンスを多く作り、センタリングに対しての飛び込みや 2 列目からの飛び出しにも迫力がみられた

- ・自陣ゴール前では相手 FW のシュートに対して、体を張ったスライディングやシュートブロックでチャンスを作らせなかった（GK がセーブする場面はあまり見られなかった）

■トピックス

～共通して見られたこと～

静岡県 U-14 年代の中体連の上位チームのゲームに共通して見られたこと

《守備》

「ゴール前での体を張ったシュートブロック」がどのチームにも見られた。決勝戦においては 2 試合目のゲームで体力を消耗していた中での後半に 3 点が入ったが、その他のゲームにおいては 1 点差のゲームが多く目立ち各チームのゴール前での守備意識の高さを強く感じた。

《攻撃》

「横への大きなゆさぶりや展開」があまり見られず、同サイド（人数が多くいるところ）からの突破意識が強かったように感じる。得点シーンからもサイドが起点となったものが多く、縦パスからの得点よりもグラウンドを広く使いセンタリングといった DF を横に揺さぶる攻撃の必要性を強く感じた。また攻撃の際に、パスによってリズムを作ろうとするチームが多く見られ、個人で打開する場面が少なく「ボールを前に運ぶドリブル」は多く見られたが、「仕掛けのドリブル」の少なさも強く感じた。

《その他》

スローインの技術の低さも目立った。スローの技術（投げるボールの質、タイミング）や受け手の技術（トラップなどの基礎技術、体の使い方、タイミング）のミスによるボールを失う場面が多く見られた。

□提言

パスサッカーの中にも、個で戦える技術の習得「仕掛けるドリブルの強化」の指導や「スローインの技術向上」の指導をすることで、チーム強化のキャパが広がるのではないかと。